

次世代脳プロジェクト 冬のシンポジウム 2018 アンケート結果

(参加431名 うち回答45名)

1. あなたの所属を教えてください

- 大学・大学共同利用機関等の常勤職員 / 21
- 大学院生 / 11 ■ 学部学生 / 1
- その他の非営利の学術研究機関に所属する常勤職員 / 3
- 病院 / 3 ■ 企業 / 4 ■ その他 / 2

2. 質問1でその他とお答えいただいた方

学振特別研究員 / 1 研究員 / 1

3. 実際に参加した日程をお答えください

- 12月12日(水) / 30 ■ 12月13日(木) / 36
- 12月14日(金) / 25

4. どのイベントに参加しましたか

- a. 「「個性」創発脳」「共創言語進化」「人工知能と脳科学」「思春期主体価値」4領域合同若手シンポジウム / 15
- b. 「意志動力学」「適応回路シフト」若手の会合同シンポジウム / 11
- c. 「適応回路シフト」「身体性システム」「オシロロジー」「人工知能と脳科学」「脳情報動態」5領域合同シンポジウム / 19
- d. 「マルチスケール脳」-トランスオミクスによる精神疾患の分子基盤解明に向けて- / 12
- e. 「次世代脳」実行委員会企画プログラム「先端技術基盤支援プログラム紹介」「脳科学関連の新学術領域研究紹介」 / 19
- f. 「次世代脳」実行委員会企画プログラム「攻める脳科学～脳を見る・脳を変える～」 / 30
- g. 「次世代脳」実行委員会企画プログラム「日本の神経科学～温故知新～」 / 28
- h. 「次世代脳」実行委員会企画プログラム ポスター発表 / 27
- i. 「スクラップビルド」「脳構築の時計と場」「マルチスケール脳」合同若手シンポジウム / 24
- J. サテライトイベント「適応回路シフト」班会議(班員限定) / 1

- k. サテライトイベント「オシロロジー」班会議（班員限定） / 1
l. サテライトイベント「適応回路シフト」成果報告シンポジウム（一般公開）
『脳の機能・病態・回復を発現する神経回路ネットワーク』 / 0

5. 参加したイベントのうち有意義と思われたイベントはどれでしたか（a～mは問4に準ずる）

a / 14 b / 9 c / 16 d / 11 e / 13 f / 18
g / 17 h / 21 i / 19 j / 1 k / 1 l / 0

6. シンポジウム開催について

- 是非継続してほしい / 42 ■ どちらでもよい / 3
■ 必要性を感じない / 0

7. シンポジウム開催時期について

- 今年度と同じでよい / 43
■ その他の時期がよい / 2（10月、11月）

8. ポスター発表について

- 是非継続してほしい / 37 ■ どちらでもよい / 8
■ 必要性を感じない / 0

9. プロジェクト（シンポジウム開催、その他の取組）に関して、ご意見・ご感想があれば、ご記入ください

・毎年、年末の第九を聴きに行くのと似たような感覚で楽しんでいる。毎回、中心テーマが少しずつ違うのも刺激があって良いと思うので、来年も本プロジェクトを続けてほしい。

・都内・参加無料でこの内容は素晴らしい。10～20年くらいは続けてほしい。

・最先端の研究をされている先生方の講演を聴ける機会は貴重だと思う。

・「攻める脳科学」の先生方の研究は、本当に感動した。このような会を毎回プログラムしてほしい。パネルディスカッションもあると、もっと色々な話を聴くことができると思う。

「マルチスケール脳」では、多くの先生の本音を聴く機会があり、とても有意義だった。あまり聴くことのできない話題を、司会の先生方が質問してくれて貴重だった。

- ・ポスター発表賞もぜひ継続してほしい。
- ・ポスター賞に関して、「グッドデザイン賞」や「イグノーベル賞」のようなユニークな項目も増やしてみてもどうか。
- ・ポスター発表の時間が短く、あまりディスカッションできなかった。
- ・オーラルは英語の方がよかった。聴いていた外国人ががっかりしていた。
- ・講堂よりも中会議場の方が口頭発表向きだと思う。また、着席もしやすく、中座も容易だと思う。

10. 脳科学研究をこれから更に推進するために必要な要素はどれでしょうか(複数回答可)

- 常勤職員の増員 / 22 ■ ポスドクの増員 / 10 ■ 大学院生の増員 / 8
- 補佐員の増員 / 9 ■ ポスドクとその教育の質の向上 / 15
- 大学院生とその教育の質の向上 / 13 ■ 補佐員とその教育の質の向上 / 7
- 国内研究者間の研究交流 / 18 ■ 国際的な共同研究 / 18
- 大型研究拠点の充実 / 6 ■ 支援拠点の充実 / 15
- 支援の種類の多様化 / 17 ■ 民間企業との連携 / 8
- より基礎的な研究の充実 / 17 ■ 出口の見える応用研究の奨励 / 3
- 一般向けの科学コミュニケーションの推進 / 25
- 教育研究以外の雑用を減らす努力・工夫 / 24
- 安心して研究に打ち込める環境作り / 25
- 異分野交流・共同研究の推進 / 18
- 多様な研究者の意見を取り入れる仕組み / 12
- 研究成果の社会への還元 / 6 ■ 英語使用の推進 / 10
- 評価・審査時の利益相反排除の徹底 / 4

11. 脳科学研究の将来の発展に重要と思われる要素について自由にご意見をお書きください

- ・まず、脳科学研究に限らず、あらゆる研究において重要と考えているのは「基礎研究の地位向上」で、現状を見るに日本においては「産学(官)連携」「社会への還元」が重視されており、基礎については国や社会からかなり蔑ろにされていると感じる。もちろん応用面も大切ですが、長い目で見たときに、やはり基礎研究にじっくり打ち込める環境が必要だと思う。また、脳科学特有の問題として「マスメディア・世間の認識とサイエンスのギャップ」があると思う。どうしても世間では特定の人物

らが出す「書籍」が脳科学のイメージ形成に影響を与えているように思う。そういった意味で、サイエンスコミュニケーションは大変重要であると考える。

- ・優れた研究者の海外流出を防ぐためには、研究予算の増加・研究者の社会的地位の向上が必要。
- ・国家の基礎研究に対する適切な認識。
- ・若手の異文化交流と若手に対する研究費の向上や受け入れラボの情報交換や研究機器使用の環境作り。
- ・海外トップラボとの共同研究の推進（日本はアウェーで不利なので）。
- ・安定したポストの確保（特認教員増ばかりで将来が描けず、研究を発展させる気持ちが失せる）。
- ・院生へのキャリア形成メンタリング（アカデミア至上主義ではない、ph.Dコース後のキャリアを具体例で示す）。
- ・人、物、金... 規模的には米国や中国に敵わない。官僚や政治家の意識が中長期国家戦略としての基礎研究の重要性を理解しているとは思えない。短期的な成果に傾倒するのは危険である。このような中、質の向上を図るのは重要であるが、領域を狭めるのはリスクが高く難しい問題である。分野をまたがる領域研究や共同研究に取り組み、若手研究者の海外進出が少ない研究・生活環境の改善が必要である。